

総合教育会議（第1回）会議録

1 開会年月日	平成28年7月13日（水） 午前11時
2 場 所	笠岡市役所 市長室
3 出席委員等の氏名	笠岡市：小林嘉文市長 教育委員会：浅野文生教育長，廣井滋季委員，谷喜一朗委員， 三谷信恵委員，石井啓弐委員 同席者：岡本裕也副市長
4 欠席委員等の氏名	なし
5 会議に出席した者の職・氏名	福尾教育部長，原田学校教育課長，前川
6 議事案件及び会議の概要	<p>1 開会 2 挨拶 小林市長 浅野教育長 3 議事</p> <p>(1) 小・中一貫教育について 初めに小林市長の小・中一貫教育に対する考え方を述べ，その後，教育委員等との意見交換を行った。</p> <p>【市長の小・中一貫教育に対する考え方】</p> <p>第7次総合計画に3本柱を提案しようとしている。1つ目が，この義務教育学校，2つ目が笠岡駅周辺の再開発，3つ目が大型の住宅開発。</p> <p>笠岡駅周辺の再開発は，現在のマルナカがある所。市役所や議会の機能，或いは市民病院，図書館といった行政の機能をそこに集約して総合庁舎を建ててはどうかと考えている。</p> <p>そうすると，現在の市役所や議会がある約一千坪の土地が空くので，合わせてそこも不動産開発しようと考えている。笠岡駅周辺の北と南を開発しようと考えている。</p> <p>笠岡駅の南と笠岡小学校までの一帯を一本の線で繋ごうとする考えで，その繋ぎ目となるのが笠岡駅なので駅の南口を造っていただこうとJRと協議を進めている。笠岡駅の南口を造ることによって南北の人の流れをスムーズにし，市役所や議会の機能，或いは市民病院や図書館といった行政の機能を南口に移すことによって，人の流れを南にも誘導し，島から来た人たちも病院通いが楽になるようにしたい。</p> <p>ただし，北口の人口減少に繋がる可能性もあるので，モデル的に笠岡小学校のある場所に小学生から中学生が学ぶ義務教育学校を設置してはどうかという提案をさせてもらう。</p> <p>笠岡小学校は元々江戸時代に町民の子どもたちが通っていた「敬業館」という学校があった場所。笠岡市民のアイデンティティを復活させる意味でも「敬業館」という名前を是非復活させていただいて，小・中一貫の義務教育学校の名前を「敬業館」にしてはどうかという提案もしたい。</p> <p>応募すれば笠岡小学校区以外の子どもたちも笠岡市内の子どもたちであれば来ることができるようにしたい。</p> <p>そこで問題となるのが，周辺の中学校が生徒を取られてしまうということ。例えば今は，笠岡小学校区で小・中一貫校というコンセプトだが，場合によっては，笠岡西中学校区で小・中一貫校ということも十分検討できるのではないかと思う。一体型でやるのか，小・中を分けながらやるのか，色々と考え方はあると思う。笠岡西中学校へ今井から，或いは大井からも通ってもらって，西中そのものを小・中一貫校にする考えもあると思う。そのあたりを今後，皆様と御議論いただきながら，或いは第三者組織を作っていただき色々協議をいただき，意見交換をしながら進めていきたいと考えている。</p> <p>最大のねらいは，9年間でしっかりと地元に根差した郷土愛を育む教育を一貫して行っていくこと。</p>

(意見交換)

意見交換の主なものは次のとおり。

廣井委員：連携教育については是非進めていただきたいが、市長の所信表明或いは市議会での答弁を聞いていると、学力に特化した有名校を作っていくと言われていたと思う。この点については、少し違うのではないか。

市長：私自身少し考え方を変えた。もちろん学力は付けていただくが、35人のクラスで副担任を付けてはどうかと考えている。35人学級に副担任を付けることによって、全体的な底上げが期待できる。それを上手く千鳥や他の進学校に繋げていくことも大事なコンセプト。ただし、それだけだと結局、東京や大阪の大学に行ってそのまま帰って来ないことになるので、何とか帰って来てもらうためには、9年間の中で島に行ってキャンプをすとか北川で田植えをすとか色々な体験学習をする、或いは笠岡市にある企業に行ってどんな仕事をしているのか自分で見に行ってみるとか、そういうことを学習の中に取り入れることによって、笠岡に対する郷土愛が育まれるような教育をしっかりとやっていく。小・中一貫教育のコンセプトは、そうあるべきだと考えている。学力を上げて有名学校を作るという考えは毛頭ない。

廣井委員：笠岡小学校がある場所では敷地の広さを考えると物理的に無理があるのではないか。

市長：中学生が入るとなると笠岡小学校のサイズでは間に合わなくなるし、校舎を建てることも必要だと思う。校舎を建てるにはどういった並びが必要だとか、或いはここに入るのかという意見は確かにあるので今後詰めていく。

石井委員：どうして小・中一貫にすると笠岡市に愛着を持ってもらえるようになるのか。

市長：同じ仲間がそのまま9年間ずっといるので、友人関係、結束力を形成する環境が整う。小・中一貫校は9年間でやることによって、例えば4年間で義務的な小学校教育を終えたとして、5年生から中学1年までの3年間は、例えばALTの先生を副担任に付けて英語教育を身に付けるとか、或いは地元の郷土史を理解している先生を副担任に付けるとか、そうすることで地元との交流を深め、郷土愛を育むような仕組みを作り、最後の中学2・3年生と同じ8年生、9年生では、進路を考えて地元の企業で職場体験をしたり、社会の構造がどのようになっているのか理解してもらえるような授業を取り入れたりできる。そうすることで愛着を持ってもらえるようになると思う。

谷委員：当初、笠岡小学校を中心に西中学校を分割するような形のお話だった。我々は子どものことを考えて、せめて中学校はクラス替えができる環境の中で育てたいという思いがあった。もし西中学校を分割して笠岡小学校に特化して、そちらに重点的に予算を投入するとなると大井小学校や今井小学校の子どもたちが不利益を被ることになる。連携教育を強化して笠岡西中学校区の中でもう少しやってみてはどうか。そして、次の段階でもう一步踏み出して小・中一貫校にしてはどうか。

市長：笠岡駅周辺の再開発をする意味は、福山や倉敷の人口を吸収したいということ。倉敷市の人がここに住居を構えて市民になってもらい、ここに通うようにしたい。駅前のロケーションと200年、300年という歴史のある「敬業館」の名前を使うことによって、十分に福山、倉敷、或いは岡山県内の子どもたちが笠岡に移住してくれる需要が十分にあるのではないか。市の中で子どもたちを取り合うのではなく、外から人を引っ張って来ることが十分可能だという思いから、最初の小・中一貫校は笠岡駅から近くて歴史のあるこの場所が良いと思う。

谷委員：西中学校を分割してしまうと本来2クラスできるところが1クラスになって、子どもの関係が固定化してしまう。我々が統廃合を考えたときも、もっと流動性がある中で社会性を身に付けてもらいたいという思いからだった。中学校区すべてで考えていただければ納得ができるが、それを分割して恩恵を受ける子どもたちと不利益を被る子どもたちが出てくるのは如何なものか。

市長：コンセプトは、「敬業館」の1学年を70人でやると仮定すると70人掛ける3学年で270人になるということ。一つの考え方としては市内から人を集めて1学年70人程度で2クラスできるのが良いと考えているが、60人で2クラスとか、50人で2クラスも可能だと思う。私も西中の生徒をどんどん減らす方向に行くことが良いことだとは考えていない。

谷委員：生徒が減ってきている中で、さらに分割して生徒数を少なくすることは問題がある。

市長：前向きな統合という意味で今井小学校と大井小学校の子どもたちに西中に来てもらって、西中学校を9年制の小・中一貫校にしましょうという、つまり笠岡西中学校区の中に2つの小・中一貫校を作るというコンセプトにしたなら、統廃合に否定的な保護者の方も納得していただけるのではないかと。

廣井委員：笠岡小学校区で1学年1クラス25人の小・中一貫の義務教育学校を作ったときに、市の予算を投じて副担任を付けたら、その学校だけが手厚くなる。他の学校はどうするのか。そういう状況が教育格差として市内に生まれる。

市長：予算の都合もあるので賛成していただいても全部を一度に変えることはできない。だから、「敬業館」或いは笠岡西中学校区で上手くいけば、それを今度は金浦や北川でも、或いは大島でもやっというのが私の考え。

三谷委員：9年間の小・中一貫校を作るメリットやわくわく感がまったく感じられない。今の学校でも十分に郷土愛を教えている。副担任を付けていただけるなら、このままで副担任を付けていただきたい。小・中一貫校が笠岡にあるから笠岡に引越そうとは思わない。笠岡に中・高一貫校があって、東大、京大などの難関大学を目指しますとか、或いはこれからそういう学校を作るのであれば、行ってみようかなという気持ちになるかもしれない。ここにマンションができて、お年寄りの方が多く入居すれば、子どもたちは増えない。それと、笠岡に企業を誘致していただきたいが、笠岡に就職しないと夢がないというのは違う。子どもは将来なりたい仕事を目指して夢を持って勉強している。9年間の地域教育で引っ張って、大学を出たらどうしても笠岡で働かないといけないという市長さんの強い思いと違って、子どもは若い間は旅立って夢を持って仕事をすればいい。

市長：笠岡市は残念ながらどんどんシュリンクしていくまちなっている。だから、笠岡にしっかりと仕事を作って子どもたちに帰って来てもらい、両親と一緒に住んで親の面倒を見る。そういったスキームを作りたい。中・高一貫校という考え方はあるが、義務教育ではないということと、やはり子どもの頭が柔軟なうちに笠岡に対する愛着とか郷土愛を育む方が良いと思う。中・高になると大学進学を目指して勉強が優先される。勉強ではなく、郷土愛を守っていきたい。

4 会議総括

小・中一貫教育については、継続して協議を行うことを確認。

7 会議の詳細	別紙議事録のとおり
8 閉会年月日	平成28年7月13日(水) 午後0時20分

上記会議のてんまつを記録し、関係図書を添付して、その相違のないことを証するため、署名押印します。

平成28年7月28日

笠岡市長 小林 嘉文

教育長 淺野 文生

教育委員 廣井 茲季

教育委員 谷 喜一朗

教育委員 三谷 信恵

教育委員 石井 啓弼